

近年県内で植栽されている緑化樹について

流通機構の発達していなかった頃の緑化樹は大部分が郷土樹種でしたが、近頃数年間続いている暖冬傾向もあって、県内にはこれまで植栽されていなかった樹種が多くみられ、また植栽される範囲も拡大されています。通常緑化樹は、常緑樹と落葉樹、高木と低木が適当に配植されて、なおかつ耐陰性や耐寒性に配慮した組み合わせが一番見映

えがします。

ここでは、植栽範囲の広がった樹種のうち広葉樹について、特性などを表に紹介します。先人がツバキやキンモクセイなどを成木にした工夫を見習って、より良質な“みどり”を造成するための参考にしてください。

表 近年植栽範囲が広がってきた緑化樹種

樹種	生活形	特徴など
シラカシ	常緑高木	カン類では、最も耐寒性があり、最近植栽地が広がっている。若木は、耐陰性もあるが、幼木は冬囲いが必要。
ハナノキ	落葉高木	愛知県の県木で県内にも自生する雌雄異株のカエデ。葉は、三裂していて、春の赤い花と秋の紅葉が美しい。
ゲッケイジュ	常緑高木	濃緑色の葉に一種の香りがあり、料理に使われる。肥沃地によく育ち、やや耐陰性もあるが幼木は冬囲いが必要。
サザンカ	〃	ツバキ属の一種で、多くの園芸品種のある暖地性樹種。耐陰性はあるが幼木は冬囲いが必要。特に土地を選ばない。
ヒメシャラ	落葉高木	幹がツルツルなので、サルスベリと呼ぶ地方もある。適湿地を好む陽樹。6～7月に白色5弁の花が咲く。
ナツツバキ	〃	ツバキに似た白い花を6～7月につける。樹皮は黒味がかかった赤褐色で、幹はツルツルの平滑。
キンシバイ	常緑低木	中国原産、7～9月に咲く黄色い花は大型で美しい。土地を選ばないが、排水のよい日当りのところで花つきが良好。寒地では半落葉。
ベニカナメモチ	〃	新葉が赤いのでアカメモチ、花が似ていることからソバノキとも呼ばれている。暖地性樹木で生け垣に多く使う。
ピラカンサ	〃	果実が晩秋に熟して美しい。野鳥のえさ木によい。特に土地を選ばない。果実が鮮紅色とオレンジ色がある。寒地では半落葉。
ハマナス	落葉低木	枝に小さなトゲが密生するが紅色5弁の花は美しい。特に土地を選ばないし、耐寒性もある。
キングサリ	〃	エメラルド色の株立ちした幹から枝を出し、黄色のフジに似た花を6～7月につける。日当りのよい場所を好む。
ベニバナトチノキ	落葉高木	接木して苗木を作る。5～6月に花をつける。西洋トチノキと紅花トチノキがある。
ハナミズキ	〃	樹皮は灰褐色、5月に枝頂に花をつける。北米原産。特に土地を選ばない。花と紅葉が美しい。
ヤマボウシ	〃	県内の山野に自生し、果実がクワに似ているのでヤマグワと呼ばれ食用。適湿地でよく育つが、土地は選ばない。
サンシュユ	〃	中国原産の薬木。ハルコガネバナ、アキサンゴの別名もある。適湿地に、よく生育するが特に土地を選ばない。
カクレミノ	常緑低木	暖地の樹木だが県内にも植えられている。適湿地を好み、耐陰性がある。幼木は冬囲いが必要。自生地では高木。
アベリア	〃	和名はハナゾノツクバネウツギと呼ばれ、庭園の垣根などに使われる。土地を選ばず。成長が早く、花期が長い。
キョウチクトウ	〃	インド原産の暖地樹木であるが県内にも植えられている。特に土地を選ばないが陽樹で有毒植物。
サンゴジュ	〃	暖地で防風、防火樹として植栽されているが県内にもある。適湿地でよく生育するが特に土地を選ばず、耐陰樹。
ミツマタ	落葉低木	新しい枝が必ず3本に分かれるので、この名がある。紙の原料として、紙幣にも使われている。早春の花木として楽しめる

(摘要) 生活形の高木は4 m以上・低木は4 m未満

(育林部 唐沢)